

地域社会における人と猫をめぐるコンフリクトの可視化に向けて

——野良猫問題と地域猫活動を事例として——

日本大学 木下征彦

1 目的

本報告の目的は、地域社会における人と猫をめぐるコンフリクトの問題状況を記述・整理の上、社会的アプローチによって問題構造を分析し、現代の都市に固有の社会問題として位置付けることである。

近年、住宅密集地では野良猫による生活被害やそれをめぐる住民トラブルが問題視され、地方自治体はその対応に迫られている。こうした問題状況に対して、環境省は2010年に策定したガイドラインで状況改善に向けた取り組みとして「地域猫活動」の方法を提示した。そこでは、野良猫を地域で適切に管理し、被害を漸減することで人と猫の共生を目指す手法が示されているが、問題の構造そのものは示されていない。そこで、本報告ではそれらを人と猫、そして人と人との関係性から解きほぐし、問題の本質に迫る。

2 方法

研究の対象は、町会レベル以下のローカルな地域社会における人と猫をめぐるコンフリクトである。本報告ではこれを野良猫問題として対象化し、データをもとに問題化のプロセスを記述・整理する。この主題に対する既存研究はほとんどないが、獣害や公害を主題とした環境社会学や都市社会学の既存研究を手掛かりに、被害、加害、解決、そしてコミュニティの視点からのアプローチを試みる。分析の対象には地域住民・住民組織のほか、行政、企業、ボランティア等が含まれる。また、猫は人との関係において把握し、管理者のあり方によって「野良猫」、「地域猫」、「飼い猫」を区別する。主なデータとしては、報告者が2010年から取り組んできた東京都などでの事例研究における関係者への聞き取り調査等で得たデータを用いる。

3 結果

野良猫問題の背景には、都市化や高齢化、ペット産業の構造、猫の外飼いや捨て猫の容認、動物愛護の理念の浸透や猫の生存に適した都市環境、猫の法的曖昧さなど、さまざまな要因が見え隠れしている。そして、その問題化のプロセスも地域の住環境や人間関係、文化などコミュニティのありようによって異なる。

この問題を被害という視点からみると一種の獣害といえ、この場合、問題は人と猫のコンフリクトに限定される。一方、加害・原因という視点からみると、しばしば猫の背後には餌やり人の存在が浮上する。その場合、問題は獣害に加えて都市空間におけるマナーや価値観をめぐる住民間のコンフリクトとして表出する。もっとも、現実には猫を介した被害—加害関係は見えにくい。また、被害住民と餌やり人が相対した場合、時に感情的な対立に発展して地域の不協和音が深刻化するケースも少なくない。ここに至って野良猫をめぐる問題は地域社会の人と人の問題として立ち現れる。そして、この問題の解決に取り組む地域猫活動は、直接的な被害軽減対策ではない。また、しばしば誤解されるように野良猫の救済を目指した愛護活動でもない。その本質は、野良猫問題を地域の公共性にかかわる生活環境問題としてとらえ、地域社会の協働によって管理者のいない野良猫を「地域猫」として新たに位置づけ地域で適正管理することで、地域の生活環境とコミュニティの人間関係の改善、そして人と猫の共生を目指すローカルな社会運動である。

4 結論

野良猫問題は、野生鳥獣による獣害や、より広範な範囲で被害認識が共有される環境公害とはその性質が異なる。この問題は、都市社会という特定の環境下で生ずる野良猫を介した人と人のコンフリクトであり、いわば「町の猫問題」とも呼ぶべき社会問題の一つとして認識する必要がある。

文献

木下征彦, 2016, 「現代地域問題の一断章——野良猫問題と地域猫活動へのアプローチ」『高崎商科大学紀要』31, 119-133.